



昨年、大きな関心を集めた健康に関する話題に、米国の女優アンジェリーナ・ジョリーさんの乳房予防切除があります。乳がん予防のためとはいえ、がんが発生していない健康な乳房を切除することに驚かれた方も多いでしょう。ジョリーさんの場合、先祖代々乳がんや卵巣がんが多く見られる家系で、一生の間に乳がんにかかる確率は通常の10〜20倍、卵巣がんにかかる確率は15〜40倍にもなります。今回は「遺伝性乳がん・卵巣がん」を考えてみましょう。

遺伝性乳がん・卵巣がん

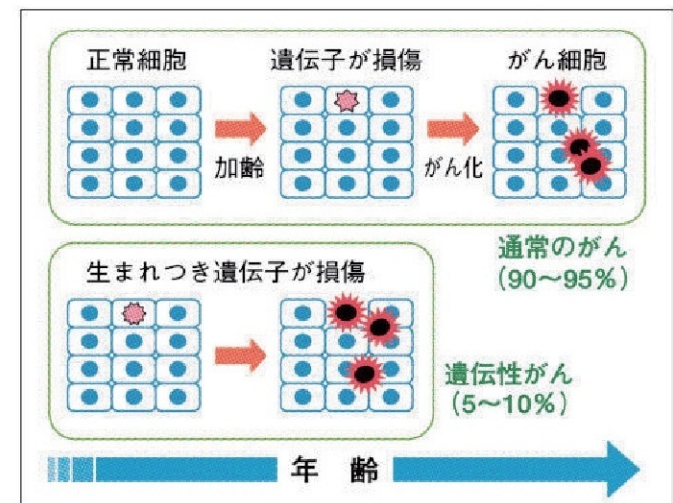


産婦人科医

今井篤志氏

40歳未満で発症傾向

ある正常な遺伝子の一つに傷がつき、細胞が異常に増殖を始めた結果、起こる病気で、図。放射線やウイルスなどにさらされるため、年齢を重ねるにつれて遺伝子が傷つき、がんは40代後半から増えてきます。大部分のがんは親から子に遺伝しません。



BRCA遺伝子に傷があるかどうかは、遺伝子検査によって調べることができ、傷があると分かれば、若い時から乳房や卵巣の検査を定期的に受け、早期発見に役立てることができ、がん発生前の乳房や卵巣の予防

がん」はBRCAという遺伝子に傷があり、若い年齢(40歳未満)で乳がんや卵巣がんを発症しやすい、左右の乳房に乳がんがでやすい、血縁者に若い年齢での乳がんや卵巣がん、そして他のがんがで

きやすいなどの特徴があります。血縁者というのは、母親の家系だけでなく、父親の家系も含みます。遺伝子は母親から娘だけでなく、母から息子、父から娘や息子にも受け継がれるからです。

早期発見へ遺伝子検査

切除はがんの発生リスクを抑えるだけでなく、いつがんが発生するか分からないという恐怖を軽減できます。特に、卵巣がんは早期発見が困難で難治性のため、現在のところ最も確実性の高い予防策です。自分の遺伝子を知るだけでなく家系内の遺伝子を知ることにもなるため、まだ「がん」家系であることを知らない他の家族のがん予防につなげることができ、その一方で、結婚前の血縁者などの将来にも影響が及びかねません。

遺伝子に傷があっても、必ずしも全員ががんを発症するわけではありません。しかし、がん発生率の高い家系の一員と分かれば、心理的なストレスが強く、社会的にデリケートな問題を含みますが、早い段階から早期発見対策や確実性の高い予防策が取れます。

(松波総合病院腫瘍内分泌センター長、羽島郡笠松町田代)